

会議名	令和3年度図書館協議会議事録
日時・場所	令和4年3月17日(木) 午後3時開会・同5時00分閉会 会場：市立図書館視聴覚室
出席者	(委員) 大内委員 遠藤委員 伊藤委員(途中退席) 江部委員 浮田委員 飛田野委員 榎本委員 中島委員 (出席8名) (事務局) 神田教育長 羽田生涯学習課長 岩城係長 石田主事 (計4名) (傍聴者) 0人
議題	議題(公開) (1) 令和3年度図書館統計の実績報告について (2) 令和3年度図書館事業実施報告について (3) 令和4年度図書館事業計画(案)について その他
羽田課長	お忙しい中ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。 定刻を過ぎましたので、ただいまから阿賀野市立図書館協議会を開催させていただきたいと思っております。本日の会議は15時から16時30分の1時間半程を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。  (併せて、録音等のおしらせ)  それでは、始めに神田教育長からご挨拶を申し上げます。
神田教育長	みなさまごめんください。教育長を仰せつかっております。神田武司と申します。新潟県はこの間、蔓延防止解除から外れたにもかかわらず阿賀野市では陽性者の数が一向に減らなくて、小学生や幼稚園・保育園の子どもたちがどんどんかかっているという状況で、陽性者が最近は続いてどうしたらいいものかと頭を悩ませている毎日でございます。はやくピークアウトして終息すればいいんだけどなと思って祈っているところでございます。本日は皆様方におかれましては大変ご多用のところ、令和3年度図書館協議会にお集りいただきまして、たいへんありがとうございます。

	<p>この図書館協議会は図書館法第14条に基づく協議会で図書館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに図書館の行う図書館方針につき、館長に対して意見を述べるという議会でございます。本来でございましたら、頻繁に皆様のご意見をお伺いして市民の声を図書館運営に反映させていかなければいけないところではありますが、今年度もまた年度末になってようやく初会合ということになりました、たいへん申し訳なく思っているところでございます。</p> <p>本日の議題は令和3年度の統計実績と事業報告を行った上で、令和4年度の事業計画案のご審議をいただくということになっております。令和4年度は図書館パワーアップ事業の2年目ということで、去年から子どもたちが喜ぶスポットということでごんばってきているわけではありますが、2年目として児童書の充実に引き続いて、さらに読書環境の整備のための施設改修を計画しております。本来であれば施設改修についても皆様にご意見を伺い、そして予算に反映させるというべきところではございますが、このように事後報告となり大変申し訳ございませんでした。阿賀野市といたしましては昨年同様に図書館に力を入れていく予定でございますので、忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます、と私のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。</p>
羽田課長	(事務局職員紹介)
	<p>それではさっそく議題のほうに進ませていただきたいと思います。阿賀野市立図書館協議会規則第2条第3項の規定に基づきまして、議事進行につきまして委員長からお願いしたいと思います。江部委員長お願いいたします。</p>
江部委員長	<p>ありがとうございます。それでは今年度も私、江部が委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議次第に基づきまして、議題に移りたいと思います。議題(1)令和3年度図書館統計見込み及び事業報告を事務局から説明をお願いします。</p>
岩城係長	議題(1)令和3年度図書館統計見込み及び事業報告について説明

江部委員長	<p>ありがとうございました。今の議題につきまして、質疑応答、ご意見・ご提言などありましたら、挙手にてお願いします。</p>
中島委員	<p>プレママプレパパ教室とブックスタートというところで、どのような絵本をプレゼントするなり、推薦じゃないけど、お見せしてたりするんですか。</p>
岩城係長	<p>皆さんにプレゼントする本というのは、題名だと「じゃあじゃあびりびり」とか小さいお子さんにすごくわかりやすい擬音などそういうものを使って、耳に心地いいような本を選んでございます。冊子としては赤ちゃんが噛んだりしても大丈夫なような厚手のものがございます。水に濡れてもある程度は大丈夫でございまして、またそういうふうな使用したような感じもまた大きくなってから見ると楽しい気持ちになるのかなというような本をご紹介します。</p>
中島委員	<p>4カ月健診と1歳6カ月健診では絵本は違うのですか。</p>
岩城係長	<p>今お話ししました本ですが、4カ月健診時に紹介する本でございまして、さすがに1歳6カ月になりますと本を食べたりするお子さんはあまりいらっしゃらないので、普通とってはあれですけど、視覚にうったえかけるような本ではありますが、文章よりも絵のほうを主体としたような本ではありますが、食べたりはすることは想定していない本を皆様にご紹介しております。</p>
中島委員	<p>今は子どもさんでもみんなそうなんですけど、日本昔話的な話はないですね。</p>
岩城係長	<p>そういう本は健診時には持ってっていないですね。</p>
中島委員	<p>わりとそういうのがなくて、西洋の感じの本が絵本のコーナーに行くと多いなあっていう。昔話でも、日本の昔話ではなくて、例えばスウェーデンの昔話とか何とかの昔話とか、んーいいけどちょっとねみたいな。わりと年寄りの文化が伝わらないっていうのをたまに感じます。</p> <p>以上です、すみません。</p>

岩城係長	私も同感でございます。ただ主としておっしゃるように世界の民話とか目立つ位置にはきておりますが、市立図書館のほうには京ヶ瀬地区の民話とかそういったものを集めたものもありますので、ぜひ来た際にはよろしく願いいたします。
中島委員	絵本のコーナーって探しづらいのね、大人は。子どもはわかるかもしれないけど、どうやって分類されてるかわからなくて、外国語とか言語ごとに分類されてるのはわかるんだけど、例えばお姫様のおはなしを探したいとかそういう時に、作家別(に分類する)というのは難しいですよ。大人が入っていくとどこ見ていいかわからない。
岩城係長	そうですね。悩んでいるところではあります。一応こちらの図書館は題名、あいうえお順で並べております。参考にさせていただきます。ありがとうございました。
江部委員長	あと他にはありますでしょうか。では伊藤さんお願いします。
伊藤委員	市立図書館の蔵書数と貸出数の関係なんですけども、水原中学校市民図書室の同じグラフを見ると市立図書館の蔵書数に対して貸出数とかななくて、スケールがよくわからないが、ひらきがあつて。例えばその蔵書数が、需要というか貸出に対して対応ができていのかどうか。グラフから見ると単純に市立図書館の需要に対する貸出数がちょっとひらいているから、対応できているのかなという、足りないのか、そんなことはないというか、どうでしょうか。
岩城係長	そうですね。そう言われるとそうかと。需要数に対して所蔵数が少ないのかということですよ。それがこちらのグラフから読み取れるということですね。ただ、絵本については、一番ひらきが大きいのは絵本かと。絵本についてでございますと、やっぱりその本が好きなお子さんは何度でも同じ本を借りるということですのでまあちょっとひらき的には大きいとこが出てきちゃうかなと思っております。なので、一般図書に関しては所蔵数と貸出数が比例しているようなところはありますので、大人はそうですね、需要と供給が合ってるかなと思うんですけども、絵本についてはちょっと子どもさんの同じ本を。というふうな考えではございますが、こちらのほう

	<p>は児童図書と絵本のほうは図書館パワーアップ事業の一環として充実させていこうと思っておりますので、貴重な意見としてお話を聞かせていただきます。検討していきたいと思っておりますのでお願いいたします。</p>
江部委員長	<p>あとはありませんか。はい、お願いします。</p>
榎本副委員長	<p>雑誌古本市ですが、受け入れ不可の寄贈図書等を利用者に提供する、これは選書会議等でご検討いただいて、あまりに蔵書に適さないなといった判断があるかと思いますが、そうした時にソフトカバーの本はあまり蔵書に適さないみたいなどはあるのでしょうかね。</p>
岩城係長	<p>そうですね。ソフトカバーというと文庫本とかそういった話かと思うんですけど、やはり長く使用するには向かない冊子でございますので、そういった面ではちょっとお断りというか、所蔵できないというような本の部類にはなるんですけども、それでもやはり皆さん特に人気のある本なんかを寄贈していただく場合は、対応できるように長く使えるような装備をいたしまして、所蔵するということもありますので、一概に全部お断りするということではございません。</p>
榎本副委員長	<p>わかりました。そしてもうひとつ、古本については古くなっているという基準というのでしょうかね。創刊されて何年以上経つものは自動的にこちらに出すとか基準みたいなものはお持ちなんでしょうか。</p>
岩城係長	<p>今の話ですと図書館としての寄贈とかじゃなくて、本の除籍するような基準としては一応10年を目安とはしておりますが、自動的に除籍になるのではなくて、やはり郷土資料なんかは何年経っても貴重なものには変わりはありませんので、それはほとんど永年保存にはなりますけども、ずっと所蔵しております。反対に社会科学系の本でございますけれども、時代ごとにすぐ変わるようなもの、女性問題とかSDGsとか最近出てきましたけれども、あの辺はもう本当に変わりが早くて、そういったことだと10年は待たずに除籍処分となるようなものもございますので、一概には10年ひとつ</p>

	<p>の目安ではございますけれども、判断基準としてはみんなで随時話し合って決めていくところでございます。</p>
榎本副委員長	<p>ありがとうございます。</p>
江部委員長	<p>他にはご意見ございませんでしょうか。 私からなんですけれども、図書館で行われる子ども図書館員ですけれども、これは小学何年生が対象とかっていうのは。</p>
岩城係長	<p>こちらは。</p>
江部委員長	<p>小学生じゃないですか。</p>
岩城係長	<p>いえ、私が説明漏れてしまって。市立図書館のほうでは小学生を対象としておりまして、水原中学校市民図書室のほうでは中学生を対象と致しました。内容的には先ほど申し上げたものなので、高学年のほうに向いている作業ではあるんですけれども、申し込みがあれば低学年からも受け入れております。</p>
江部委員長	<p>これは学校単位で、しませんかという案内が</p>
岩城係長	<p>図書館内と広報でのお知らせになりました。 すみません、低学年というか中学年からですね。</p>
江部委員長	<p>はい。あと中学生で職場体験というのがありますけど、そういった形でも各中学校からそういう図書館体験というのはあるんですか。</p>
岩城係長	<p>ありますね。中学生から、今年は京ヶ瀬中学校の生徒さんを受け入れましたし、水原中学校の生徒さんは水原中学校市民図書室のほうで体験いたしました。あのうちの課長のお子さんも図書委員の一日体験を。</p>
羽田課長	<p>それは図書館員体験の小学生のほうで。</p>
岩城係長	<p>そうですね。中学生ではなかったですね。失礼しました。</p>

江部委員長	あの安田中学校と笹神中学校の生徒さんは、そういった何か体験は。
岩城係長	今年度または昨年度につきましては、コロナのこともありまして、先程申し上げましたような京ヶ瀬中学校と水原中学校の2校だけになっております。
江部委員長	わかりました。ありがとうございます。 他にはご意見はありますでしょうか。なければ、次に議題(2)に移ります。令和4年度事業計画(案)について説明をお願いします。
岩城係長	議題(2)令和4年度事業計画(案)について説明
江部委員長	ありがとうございました。それでは、質疑応答、ご意見・ご提言などありましたら、挙手にてお願いいたします。 ところで、工事はいつから始まるんですか。
岩城係長	いえいえ、施設改修につきましては令和4年度からということで、年度が変わりましてから、改修計画のほう年度内に着実に進めていけるように、これから事業の改修計画を実際に業者のほうと進めていきたいと思っております。
江部委員長	開館中に工事をやるんですか。
岩城係長	そうですね。もしくは、LEDとなると全館になりますので休館ということも視野に入れての工事となるかと思っております。そのあたりはまだ入札等もしておりませんので、業者が決まり次第、打ち合わせしながら進めていきたいと思っております。
江部委員長	ありがとうございます。何かご意見は。
中島委員	いいですか、また。
江部委員長	はい。貴重なご意見なので。

中島委員	<p>最近テレビで県立岡山図書館っていうのやってみましたよね。利用者数が日本一だっていう。あそこで予算が少ないので雑誌なんかはスポンサーを募集して一年間の購読料をスポンサーさんに出していただいて購入してますって話をしてたんですけど、この辺だと五泉図書館でやっていますよね。っていうのがあって、予算が充分だからいいか、あんまり変なところの雑誌を入れてもどうかっていうことなのかわかりませんが、そういうことをやっている図書館があるっていうことが一つと、それから新潟市立図書館が電子図書の貸出っていうのをやるって出てきましたよね。お子さんたちに大変手厚くていいんですけど、たぶん阿賀野市の老人化はすごいと思うんですね。スピードがね。一人暮らしの方でたぶん自分では色々できないから施設に入るって人がいて、施設には図書施設がなくて、自分の蔵書なんかも始末して入るわけですよ。そうすると、そういう人たちが読む本がないのね。週刊誌とかは定期的にとれるけれども、まとまった本というのはなかなか読めない。そういう人は大きな施設に一人や二人しかいないかもしれないけれども、すごいさみしがっているかなと思うので、そういう老人施設にもうちょっとなんかサービスをお願いしたい。そういうパワーアップもお願いしたいと思います。</p>
岩城係長	<p>今のお話でございますけれども、色々な図書館が予算が少ない中頑張っているということは、今現在はパワーアップ事業ということで予算ついてございますけれども、まあ明日のわが身ということになりますので、その予算のない中でも皆さん一生懸命頑張ってより良い図書館を作っていますので、そのあたりは予算がいくらなくなるを見越しまして参考にしていきたいと思っております。</p> <p>あと老人施設のほうの本の貸出でございますが、学校にも団体貸出ということでやっておりますけれども、同じように老人施設のほうにも本の貸出ということはできますが、実際それを利用されているのがシンパシーさんなんです。そちらのほうは1回に50冊借りて1カ月借りてからこちらに返却してまた50冊ほど借りていくということで利用していただいております。私も実際自分が施設に入ったら読む本がなくて困っちゃうなあとは思っているのですが、もうちょっとこのシステムを普及させていただきたいなとは思っておりますので、今後ともそういったことで検討して参りたいと思っております。ご意見ありがとうございました。</p>



江部委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。 ちなみにどういったジャンルでシンパシーさんに。</p>
岩城係長	<p>うちの職員の司書が担当しているんですが、やはり老人の方に読みやすいように大型活字本というのを最近多く購入しております、大型活字本とか、あとは写真集といったような視覚に訴えかけるもの、あとはそれほど厚さでちょっといやになってしまう本もあるので薄い本とか、手に取りやすい軽いような、内容というか持つのに軽いような本をピックアップして貸出しております。</p>
江部委員長	<p>はい、ありがとうございます。 他にご意見はありますでしょうか。</p>
神田教育長	<p>ちょっといいですか。 子どもたちあのあれです、本に親しんでもらいたいんですけど、全部タブレットが一人一台ずつ入って、(学校では)タブレットに一生懸命で、うちに帰るとゲーム機で一生懸命で、前から言われてたんだけど、活字離れといいますか本離れっていうのが、極めてあの激しいですね、新聞も含めて。今日あの小学校の校長先生と幼稚園の園長先生がいらっしゃってますけども、やっぱりあの一番子どもに身近な本っていうと学校にある本っていうふうな感じがするんですね。ですので、連携して子どもを本好きにしてやりたいっていう、連携してなんかっていうふうなことで。現状として市立図書館も人数が潤沢にいるというわけでもないのですが、なかなか大変だなとかっていうふうなこととか、要望っていうふうなこと、現状っていいですかね、要望も含めて一言聞かせてもらえれば。読書環境を良くするみたいな観点から、どんなものでしょうかね。</p>
中島委員	<p>小学生とか中学生じゃなくて、もうちょっと年下なんですけど、飛び出す絵本とかあるじゃないですか。あれはもうとつてもすぐ壊してだめだなどは思うんですが、なんか色んなところを隠していたりする絵本もあって、それを開くと何かが出てくるとかっていうのが、その知的な障がいがある方とか幼いほどお子さんたちはすごく楽しいみたいなんです。そうやって本、ただ読む本じゃないけど</p>

タブレットにはないそういうなんか変化っていうのが馴染めてれば、ああ本って開くと面白んだっていうのがあったりするんですけど、まあ飛び出す絵本は図書館には馴染まないよなとかと思いますが、ちょっとこうページが二つ重なっていて開くと違うのになるとかっていう、紙で工夫してある本、ちょっとくらいこれは十回、百回やっても壊れないような変化みたいなものがあるような本も少しでもいれといていただくとなんかあんまり馴染まないお子さんでもちょっと見たりしてそっからっていうのがでてくると思うのでやっぱり一番最初のその本っていうのは面白いなあっていうのはただめくって人からの刺激、言葉で人に言われて面白いと思うのもあるけど自分の手でめくったら何かが出てきたっていうのはすごい変化で、小さいお子さんたち好きなんだと思うんですね。だからそのへんも、中学校も小学校もその前のところでもそういうような本の種類、ただ活字があるのが本だよじゃなくてなんか色んな変化っていうのがいいかなと私は思います。

浮田委員

いいですか。中島さんがおっしゃることもそうで、図書館パワーアップ事業で幼児ですとか力入れていくということなんですね。幼児期と小学校とっていうのは先生方であったりとか手厚くこう図書館側もそうですけど、色々試行錯誤しながら生徒たちとか子どもたちに本を与えようとしてくださるんですけど、中学校になるとそれが一気にぱたっと途絶えるんですよ。あと自分で読むかなくてぐらいの子たちがぱたっと途絶えるし、現状、私今高校に勤めてるんですけど、中学校から来た生徒がうちの図書館にこんな本ないとかいうことを言うわけですね。今どんな状況って聞くと「いや行こうとは思わない。まず部屋が暗くて、読みたい本もないから行きたいとは思わない。だから図書館は行かなかった。」っていうんですよ。そうすると幼児とか小学校は手厚いわりに、中学校、今度自分が読もうとする年代の図書館が疎かにされているので、そうなってくるとやっぱりどんどん上にもいかないと思うので、私以前に一年間だけ水中以外の3校を一年の間一学期ずつ、京中・安中・笹中ですか、あの環境整備で回った年があったんですけども、そこから約10年までいかないですけど、経てそのままにされてしまったんだっていうような印象を生徒の言葉から受けたので、なかなか職員をずっと年間通してつけるのは無理にせよ、その1年間の間、例えばお昼休みなりを中心に図書を揃える整理するような職員がい

	<p>て、その中学校の図書館のほうもちょっと整備するようなことを考えていかないといけないんじゃないのかなというのも、常々思っているところではあるのですが。</p>
<p>中島委員</p>	<p>あともうひとつなんかあのほら、図書を選ぶ先生というか選ぶ人がいたりなんかして、たぶん今の子どもたちは、あのほら今割とスポーツ選手が書いた本とかあるじゃないですか、サッカーのなんとかの人のとか、シンガーソングライターの書いた本とか、そういう本って、大人は選びませんよね、絶対ね。</p>
<p>浮田委員</p>	<p>そうですね。だからこそ生徒にどんな本が好きなのかのアンケートをとるとか、そういうのも大事ですし、あとは選ぶ人がアンテナを張っておかないといけないっていうのはありますよね。</p>
<p>中島委員</p>	<p>だからそういう本で、こうエサにしてみたいな感じで。</p>
<p>浮田委員</p>	<p>そうなんですよ。以前、会にお邪魔した時も言ったような気がするんですけど、今の子って縦字が読めないんですよ。スマホ世代なので。横で書いてある携帯小説であれば読めるけれど、縦が読めない。しまいには漫画も読めないらしいんです。あのコマ割りの順番がわからない。だいたい文章を読めばストーリー展開がわかるかなと単純に読める側は思うんですけど、それがわからない。</p>
<p>中島委員</p>	<p>いや、でも、今の漫画って読みづらいですよ。</p>
<p>浮田委員</p>	<p>やっぱりそれすら読めないっていう子もいるので、そこらへんも踏まえて、導入として、女の子向けが多いんであれですけど、携帯小説のようなものであるとかも、すごくたくさん入れるというのはあれかもしれないですけど、導入として中学校とか。高校なんかも入れてますけど、そういったのを足がかりにっていうようなことも必要なのかなとはちょっと思いますね。</p>
<p>中島委員</p>	<p>全然図書館と関係ないんですけど、小学校1年生がちょっと進んで算数の問題があるじゃないですか。横が読めない子がいたのね。だから、あの数式はできるんですよ。何足す何はあるけど、文章題とかって横になると読めない子がいて、すごいどうしてこの子は読</p>

<p>浮田委員</p>	<p>めないの、字が読めないのとかって親もみんな心配していたことがあって、そういうのって色々ですね。</p> <p>そうですね。じゃあまたこう成長過程でスマホであったりとかデジタルなものを持つ年代になってくるとそれがまた顕著に、くるっと変わるかもしれないですね。</p>
<p>榎本副委員長</p>	<p>ちょっといいですか。</p> <p>私ですね、今、教育長さんのお話伺いまして、図書館としての支援といった時に、小学校とかそういったところに本を、冊数まとめて貸出をして利用していただくとそういったような取り組みが今現在も行われていると思うんですけど。</p> <p>それについて、テーマ読書といったような形で、世界の平和とか、自己実現とかそういったテーマ性を持った本を各学校に貸しつけて、そして図書館としての支援といった形としてやって、各学校でやっているかどうかわかりませんが、読書コンクールのような形ですね、子どもたちが、それぞれの感性でたとえば平和について考える。色んな考え方が出てくると思うんですね。それでコンクールを学校ごとにやる、そういったきっかけ作りみたいなようなものを、ある程度入れていかないと、なかなか次のステップにいかないのかな。つまり自分で考えるという自分のステップになかなかいかないだろうという気がするんです。どうでしょうかね。</p>
<p>岩城係長</p>	<p>そうですね。今おっしゃっていただいたようなことを団体貸出ということで学校さんのほうから、教科書に沿ったテーマで依頼は来ます。なので、SDGsに関するものとか、これからこういった職業に就きたいという子どもさんたちにとって色々な職業がわかるものの本の貸出とか、もしくはドキュメンタリー的なものノンフィクションに関する事とか。教科書のテーマに沿ったもので貸出依頼というのは随時来ます。そのテーマに合わせてこちらは図書を選んでいくわけなのですが、今榎本委員さんがおっしゃったようなこと、逆にこちらのほうからこういったテーマでもって貸出して、そのテーマに見合うようなことを児童生徒さんが自分なりの解釈なり感想をもって、読書感想文的なものを書いていただいて、それをコンクールという形でっていうことは実際しておりませんので、貴重な意見としてこれから図書館をパワーアップではないですけども、今言</p>

ったような本離れ活字離れしていくお子さんにとってより良い読書体験ができるような事業を考えてまいりたいと思いますので、今言ったようなご意見は、貴重なご意見として参考にさせていただきます。ありがとうございました。

大内委員

すみません、私からもいいですか。

神山小学校の大内と言います。市の学校教育研究会の図書館協議会の事務局を担当させていただいておるんですが、いつも話題になるのは読書週間の時になるとみんな一生懸命子どもたちは本を読むんだけど、日常にしてみるとなかなか読書量が増えない。そしてしかも今コロナ禍の中で、図書館にみんなが集まって本を読むというのもあまり進められないような中で、読書離れが進んでいて、やっぱりあの全国学力テストなんかの結果を見るとやっぱり読書量が少ない子は学力が低かったり、阿賀野市もそう読書量が多くないというあたりで、もうテコ入れしていかなきゃだめだなということですね。あの岩城さんにはお世話になっているのですが、全小中学校の図書館主任の先生方にお集まりいただいて県の、2回研修会を行っているんですがそのうちの1回は市の図書館の、今年度ですね岩城さんのほうから来ていただいて先進校の取り組みというのも紹介していただいたりしております。やっぱりあのリーダーシップをとっていく図書館主任がどのくらい一生懸命になるかっていうのをすごく大事なことなので、来年度もぜひご協力いただけたらなと思うんです。それとあの私県庁の生涯学習推進課にいた時に、青少年教育係が図書館の担当をしていたんですけども、やっぱりあのポップコンテストがすごく有効で、高校生なんかの投稿数がものすごく多くてですね。盛況だったという話で、先程のそのコンテストみたいな案も出ていましたけど、そういうのもオリジナルでやってみるのも一つの案かなと思うので。

最後に団体貸出、先程聞いたお話大変参考になったので、帰ったうちの図書館主任にも、そういうあたりでこういう本が今回くるんだよみたいにして子どもたちの興味をひくなんてこともあるのかなと思います。ありがとうございました。参考になりました。

神田教育長

小学校の図書館協議会、市立図書館が読書推進活動で目標まで行った子が応募すると賞状がもらえたりするというふうなのをやはりひとつの目標として上手に使って意欲を高めるというふうなことも

大内委員	<p>ぜひ積極的に取り組んで、その反面、読みたくなる本を選定して読みたくなるように見せる、飾るっていうんですか。アピールしていくっていうふうなことも合わせてですね。取り組んでもらえれば。</p> <p>そういったノウハウもまた、ご指導いただきたいなど、ぜひ。</p>
神田教育長	<p>今、小学校・中学校はブラック企業と言われて、県は何を言っているかという、多忙化解消。先生方は多忙すぎるっていうふうなこともありまして、ブラック企業だなんて言われているんですけども、それでもやっぱりやらなきゃいけないことはしなければ、子どもは力尽きませんので、上手に市立図書館と連携を図りながら取り組んでいただければ、子どもたちのためになるなと思います。よろしくをお願いします。</p>
江部委員長	<p>他にはありませんか。</p>
遠藤委員	<p>すみません。私全然しゃべらなかつたんですが、パワーアップ事業ということで、あの見させていただいて乳幼児期からやっているんですけども、先程お聞きしたら、私も勉強不足であれなんですけど、他の図書館とかね。どういう風な展示の仕方をしているかというのはよくわからないんですけども、先程絵本とかもね、あいうえお順でしたっけ。展示されているという。</p>
岩城係長	<p>あの題名ですね。</p>
遠藤委員	<p>と、いった時に、絵本を借りに親御さんが来た時に何を借りようかなっていった時のその先程ではないですけど、わからないっていうあたりの物があります。</p> <p>こども園になって、0歳から年長5歳児までいるんですけども、毎月絵本を購入させていただいていて親御さんに園で読んで持ち帰って、おうちでも読んでいただくっていうことをやっているというのと、あとは以上児、3歳4歳5歳児ですけども、毎週自分で読みたい本を選んでおうちに持って行って、お休みの時に親御さんに読んでいただくっていうことをやっています。</p> <p>そして日々子どもとの生活なので、毎日生活の中で朝の会なり帰りの会なりあるんですけども、先生が子どもたちにこの本を与えた</p>

いなどかこのお話を子どもたちにも聞いてほしいなっていうもの、絵もそうですし先程もありましたけど、お話の内容とかもあるんですけども、そういうものを子どもたちに今日はじゃあこの本みんなに読んでやるねって言いながら、朝お部屋に入って(絵本を)立てておきます。なんの本だろうねって子どもたちは楽しみに待っていて、じゃあ今日のお話の時間ねっていってお話をするんですけども。そこで子どもたちの気持ちをこう揺さぶるっていうか、楽しかったな、ああ今度これ借りたい、今度これお母さんに読んでほしいとかっていう、やっぱりその積み重ねを日々行いながら、本当ちっちゃい時からお話が好きだとか、おうちの方を巻き込んで、今度は図書館に本を借りに行こうっていうところまでいけると、とてもいいのかなっていうふうに思うので、本当に低年齢からのそういう積み重ねってすごく私たちからの立場からすると、重要なことなんだなっていうふうにお話を聞いていて思いました。

あの残念ながらうちの幼稚園なんですけども、未満児さんが入りましたので図書環境としては本当に絵本のお部屋っていうものがなくて、本当にあの広場に行く広い廊下のところに絵本を並べていて、ベンチがあるっていうところで、子どもたちが広場に行く時に見たい本があった時、そこから自分で出してベンチで広げてみたりというような環境でしかないんですけども、こんなに近いところにとっても素晴らしい環境もあるので、またぜひお邪魔して楽しい絵本たくさん子どもたちに出会わせたいと思います。申し訳ありません、長くなりました。ありがとうございました。

中島委員

いっぱいしゃべったのに、最後に学校の先生にお願いしたいのは、読書感想文とかなんとかっていうと読む子はそのまま読むと思うんですけど、あんまり読まない子はもっと引くと思うんですね。出来の悪い人間が、そう思います。で、ポップっていうのは違う表現主体なので、感想とかじゃないので、絵とか色とか色々あるのでそれはいいなと思うんですけど、読書感想文を書こうとか読書週間とかいうと出来の悪いのは逃げると思います。

岩城係長

私も読書感想文が大の苦手な人間なので、おっしゃることはよくわかります。

神田教育長

特に書き直しをさせたもんには絶対に読まない。

中島委員	<p>そこがもう本離れを呼ぶ元凶みたいな気がするのと、それから読む本だけじゃなくて、私はあんまりできないんですけど、調べるっていうのに図書館を使うっていうことをもうちょっと利用しようよっていうことをなんかしたほうがいいと思うんですね。本読まなくてもいいけど、何々についてじゃあ先生と一緒にこの本で調べてみようとか言って調べる、でなんかするっていうのは、読書感想とは違う使い方、なんか今はみんなこれ(スマートフォン)で調べますけど。でも図書館で調べてみようみたいなのは、私はいんじゃないかなって思うんですね。以上です。すみません。</p>
江部委員長	<p>ありがとうございます。</p>
飛田野委員	<p>家庭にも本なんかはありますでしょうかね。 家庭の中に。</p>
榎本副委員長	<p>中島さんのおっしゃったことを聞いて感じたんですけども、小学校の頃に先生に、学校の図書室で、色んな国のことを調べてみようとか、自分はフィリピンのことを調べるとか誰々はじゃあタイのことを調べるとか、それぞれに調べてみたい国がばらばらにあったりして、そこでもう、それについて学校の図書室に入って、本当によく社会の時間よく勉強といったらあれですけど、調べた経験があるんですよ。そういう自分から関心をもってひとつのテーマについて調べていくっていうことは今後人間性を育てていくうえで、自分から関わりをもって何かに向かってやっていく、ひとつの動機付けになるんですごく大事なことですし、それが出来るのは多分この図書館でもっている、例えば子どもたち向けの国に関しての資料だとかそういうものだと思うんです。そういう読書コンクールに限らず、調べ読書に図書館として協力するっていうところで、図書館として関わりをもっていく、それもいいのかなという気はしてました。すみません、長くなりましたけども。</p>
神田教育長	<p>飛田野さん何かありますか。</p>
飛田野委員	<p>あの全然阿賀野市の図書館のことではないですけども、私10年前くらいから、フィリピンの。フィリピンてほら、貧しい国ですよ</p>



ね。日本から見たら。あの島もあるし、川もあるし、まあ私たちから見ると僻地なんですよ。世界の僻地。そこのね、密林の中に種族が色々いるわけですよ、政府がわからない少数民族。で、不便だし、そういうのあるんですよ、10年くらい前から密林の中において、本を届けるという仕事をボランティアでやっていて、まず図書館作るんです。セメント運んで行って、船で。そしてまあ図書館作ったんですけど、本をみんな寄付してもらって、タガログ語で直したり、あの少数民族で言語や方言、色々ありますけども、基本タガログ語で共通語は英語です。で、そこに本寄付したり、1年に1回、本を担いで行くんですよ。何人かで。そして今10年くらい経った、毎年こう、10年以上経ったかもね。そしたら図書館を作ったことで、台風の時に避難所になるし、図書館は子どもは学校に行けない子がいっぱいいますからね。絵を見て、例えば犬の絵を見て、これはドッグだ。それをうちに持って行って親に教えるんですよ。親がそうすると、犬はタガログ語で少数民族の言葉なんだけども、共通語はドッグだということがわかる。それでね、そこの種族はね、すごく生活向上したんですよ。だから本っていうのは、すごいなと思いました。もう今は4つ目の図書館作ってますけども、全部こっちからの寄付ですけどもね。で、その図書館で育った子どもが、ジョイスっていうんですけどもそういう僻地の教育を支援する会があるんですけど、その奨学資金で川を越えて泳いでちょっとした街に歩いてそこから2kmくらい歩いて学校に通って高校を卒業して、戻って図書館の職員になってるんですよ。で、その人たちが読み聞かせすると、だから読み聞かせってすごいです。絵と文字と、文字がわかるから他のものも読む、知識がすごく増えてるんです。あまり古い本ばかりじゃかわいそうだということで、基金で新しい本。新しい本はすぐボロボロになるくらい。古い本はやなんですよ。みんなそうだと思います。あのそういう経験をして今コロナで行けませんけども、やっぱり本ですごくなって思いました。全然図書館と関係ないんですけど、本のすごさです。

江部委員長

ありがとうございます。すごく深い話を聞かせていただいて。

飛田野委員

すごくいっぱいありますからね、あそこは少数民族っていうのが。密林にみんな隠れてる。

江部委員長	すみません。あの児童書の充実っていうんですけども、どういったジャンルで。やっぱり小学生対象に、社会の変化があるので。
岩城係長	そうですねやはり児童書の充実というと図書館としては、ひとつの偏りはなくしたいところではありますが、充実のひとつとしては学校の学習を支援するという面からそういったような教科書に沿ったようなこととか、SDGsとかそういった現代の時事問題とかそういったことにしぼったどういった職業があるかというようなもの。学校のその、あまり子どもさんが手に取らないけれども、学校からの要望はあるような本を入れたりとか、あとは名作、読み継がれる名作とかをあの重点的に入れるようにしてありますが、名作というような本はすでに図書館にはあるので、これから名作になるであろう図書とかを考えて充実させていっているところでもあります。あとは随時学校とかお子さんからのリクエスト、図書館の傾向にあったものに、漫画とかはあまり入れたりはしないので、そういったものをちょっとよく見極めながら、選書しているところございます。
江部委員長	その学校に貸し出す冊数というのはどの学校も同じ数ですか。
岩城係長	そうですね。上限が100冊となっております、1カ月の貸出となっております。
江部委員長	学校の規模によって水原小学校だったら児童数多いですし、少ない小学校もありますけれども、どこも同じということですか。
岩城係長	はい、一律同じ100冊までとなっております。
江部委員長	ありがとうございます。  他にご意見はございませんでしょうか。年に一回の協議会なので、ぜひここで。
飛田野委員	なんかこの間、私地区の、今はあんまりないけども、広場みたいなんありますよね。老人たちが集まる場所。私も老人ですけども。紙芝居読んでくれって言われた時、笹神図書館に行ったけど、もう

	<p>ボロボロで見るも無残なのばかりで、じゃあこっち(市立)のほうに頼んでねってこっちのほうに頼んで来たんですけど、やっぱりボロボロです。</p>
岩城係長	<p>あ、そうですね。紙芝居に関しては。</p>
飛田野委員	<p>あの、ないのかなと思って今。</p>
岩城係長	<p>本当にないところではあるんですよ。需要もないところではあるんですけど、好きなお子さんは借りていかれているので、ないということもないんですよ。</p>
中島委員	<p>あの、それは、大人の人に頼まれたんですよ。</p>
飛田野委員	<p>そうそう、年寄りに頼まれたんですけども、結局ね、日本昔話とか、宮沢賢治あたりしかないんですよ。そうじゃなくて別なのを、私は欲しかったのになかったんですよ。</p>
岩城係長	<p>ああ、なるほど。</p>
飛田野委員	<p>年寄りだって、ずいぶん老人ですからあれですけど、いまの昔話とかは。</p>
中島委員	<p>なんとかのどっかのお寺のお坊さんが紙芝居をやってくれていたとかいう話聞いたことないですか。</p>
飛田野委員	<p>あれは、指人形でしょうかね。</p>
中島委員	<p>紙芝居もやってみたいなんですよ。</p>
飛田野委員	<p>かもしれないですけど。あのもっと今のお年寄りはテレビ見てますから知識豊富ですから。昔話なんかもうとっくに卒業してますので、中にはね、ちょっと新しい話題のもほしいなとすごく思ったんですよ。</p>
岩城係長	<p>紙芝居ですね。わかりました。</p>

飛田野委員	でね、耳が聞こえないでしょう。年寄り。目もあんまりあれだわね。でも紙芝居って静画ですので、動画じゃないから。で、見やすいんじゃないかなって思います。もうちょっとね、新しいの。年寄り相手だから年寄りばかり。
岩城係長	なかなか難しい要望ではありますが、ちょっとこちらのほうでもこのようなリクエストに沿って選書させていただきたいと思います。 どうも、貴重な意見ありがとうございました。
飛田野委員	もうちょっと新しいのがいいって言ったら、ないって言われました。
岩城係長	申し訳ありません。
神田教育長	あの、学校もそうなんですけど、実際私現場で見たことないんですけど、新旧入れ替えっていうサイクルがうまくいってないんじゃないかなっていう疑いは持っているんです。で、そこらへんまたチェックして、新旧入れ替え、常にリニューアルしていくというふうにもっていききたいなというふうに思っていますので、よろしく願いします。
飛田野委員	新しい本とか新しい紙芝居があると、新しいだけで手に取るってこともありますよね。
神田教育長	ありますね。
飛田野委員	いくら名作でも、もうボロボロだったり、ボロボロってことはいわゆる古って思うといじりませんから。
大内委員	特に低学年はそうですね。
飛田野委員	新しい本っていうのは今回いっぱい入れていただきますけども、すごくいいことだと思います。

岩城係長	はい、ありがとうございます。
榎本副委員長	すみません、あの、予算に関連するようところで、専属の司書の件なんですけども、なかなか予算的に、要求レベルではあるんだけども難しいというようなそんなような状況なんでしょうか。
羽田課長	司書、ここの。
榎本副委員長	はい。今は0なんですよね。
岩城係長	それは正職員としての司書が0ということでございまして、会計年度任用職員8名いるうち6名が司書でございまして、常駐というかフルタイムでしていただいております。
榎本副委員長	なるほど。たとえばその司書さん非常に専門性が高くって、こういったようなことについて調べたいんだけども、どんな本を読めばいいでしょうかみたいなそんな相談にも対応できるようになっているということですね。
岩城係長	はい、現在もしておりますので。
榎本副委員長	わかりました。ありがとうございます。
江部委員長	職員の方々、フルタイムであちこち、小学校に読み聞かせに行ったり。
岩城係長	早番遅番とみんな一生懸命働いていただけてます。
江部委員長	ありがとうございます。何かご意見はございませんでしょうか。じゃあ時間もかなり進んできましたので、このへんで、それでは令和3年度阿賀野市立図書館協議会を閉会したいと思います。本日はありがとうございました。
羽田課長	長時間にわたりまして、本当に熱のこもった協議会になりまして、大変お疲れ様でございました。皆様方から色んなご意見ご提案をいただきました。事務局としましては非常に参考になるヒントをいた

だけたかなというふうに考えております。今後の事業の推進に活かしてまいりたいと考えております。それではだいぶ時間おして遅くなりましたけども、お帰りにつきましても気を付けてくださるよう、お願いを申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

午後 5 時 閉会